

[ 抄録様式 ]

<p>財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 29 年度 歯科保健活動助成事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：全国地域で取り組む水道水フロリデーション住民学習活動</p>
<p>2. 申請者名：NPO 法人 日本フッ化物むし歯予防協会 会長 山内 皓央</p>
<p>3. 実施組織：[企画運営] NPO 法人 日本フッ化物むし歯予防協会 [協賛団体] 市民団体：吉川フロリデーション推進会議（埼玉県）、あゆの会（富山県）、長崎フロリデーション協会、北海道子どもの歯を守る会、健康増進ネットワークおかやま、NPO 法人：ウォーターフロリデーションファンド、県行政：新潟県、[学術支援団体] 歯科医師会：山梨県歯科医師会、川崎市歯科医師会、富岡甘楽歯科医師会、歯科学会：日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会、歯科大学：鶴見大学歯学部（地域保健学）、神奈川歯科大学大学院（口腔衛生学）</p>
<p>4. 事業概要：水道水フロリデーションの科学に関する正しい情報の提供を昨年度に引き続き実施した。市町村単位の住民学習活動として、吉川市（埼玉県）における市民健康まつりでの水道水フロリデーションに特化した情報提供、高岡市（富山県）において研修会を中心とした水道水フロリデーションを含むフッ化物応用に関する情報提供を行った。加えて、歯科衛生士専門学校学生を対象とし、学修媒体配布前後の質問紙調査を実施した。また、協賛団体や学術団体の実施組織内では、キーパーソン対象の研修会、資料配布などにより、同様の地域活動が芽生えることを目指し、合わせて、これら活動促進のため学会・歯科大学との連携を持った全国組織活動を昨年度に引き続き行った。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>(1) フロリデーションに関する啓発資料の配布：“マンガでよくわかる！水道水フロリデーション？”等</p> <p>(2) フロリデーションに関する啓発資料の評価：“マンガでよくわかる！水道水フロリデーション？”読書前後の質問紙調査</p> <p>(3) 地域における啓発講座：講師派遣</p> <p>(4) 地区イベントでの展示ブース：資料配布・市販飲料水のフッ化物濃度測定・歯科相談</p> <p>(5) ホームページでのフロリデーション科学情報の提供</p> <p>(6) 実施組織内部における担当者対象の研修会や協議会の開催</p> <p>(7) 各地域からの相談受付</p>
<p>6. 実施後の評価：</p> <p>水道水フロリデーションの有用性は、国際的医歯学保健専門機関から公表されているが、今なお種々の誤謬がネット情報で氾濫し左右される状況がある。正しい健康情報を一般住民が選択する能力が培われる必要があり、そのための専門家の責任も重大となる。国、日本歯科医師会、地域歯科医師会、口腔衛生学会、全国歯科大学との連携は必然である。国は保健医療 2035 提言書の中で、自らが受けるサービスを主体的に選択できる社会実現を挙げ、学校教育、医療従事者、行政、NPO および保険者からの働きかけなどによってヘルスリテラシーを身につけるための支援をすることを述べている。水道水フロリデーションについても一層の信頼感をもって社会から受け止められる啓発活動、住民学習活動に繋がる整備が必要であると思われる。</p>